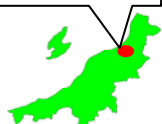


にぎわい通信

新潟市



「NIIGATA港☆ジャズナイト2011」を開催しました

8月14日、万代島水産物水揚場にて「NIIGATA港☆ジャズナイト2011」を開催いたしました。当日は大変暑い中、約600名の方にご来場いただきました。



チャリティーキャンドル販売にも多くの方にご協力いただき、キャンドルの売上金は全額、東日本大震災の義援金として日本赤十字社を通じて寄付させていただきました。

新潟市



地域経済活性化シンポジウム 「東日本大震災からの復興 新潟と仙台の挑戦」

9月24日、ホテルイタリア軒にて地域経済活性化シンポジウム「東日本大震災からの復興～新潟と仙台の挑戦～」を開催しました。

日本総合研究所の寺島実郎理事長が基調講演し、国土交通省の徳山日出男東北地方整備局長がビデオメッセージを寄せ、被災直後の活動を報告。パネルディスカッションでは、篠田新潟市長や奥山仙台市長らが、被災地に物資を送る物流システムの拠点化や地域連携のあり方について意見を交わしました。



新潟市

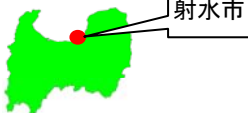


「2011 月待ち湊」入船みなとタワー広場で月見の会

今年で7回目となるNPO法人「にいがた湊あねさま倶楽部」主催の「月待ち湊」が、9月11日17時から19時30分まで、入り船みなとタワー広場で開かれました。流木あんどんが飾られ、月見茶屋で東日本大震災復興のため購入してきた福島のお酒



が振る舞われる中、18時と19時には琉球ユニット「でいがでいなきよ里」の沖縄民謡の演奏がありました。当日は少し風が強く、見えなかった月も、集まった皆さんが愉しんでいるうちに、中秋の名月に一日早い顔を出してくれました。



射水市

イベント情報

帆船海王丸イルミネーション&進水記念イベント

○イルミネーション

海王丸パークには、海の貴婦人と称された海王丸が現役時代の姿で、係留保存されています。期間中は毎日、海王丸の船首から船尾までマスト頂上部間と舷側を、約400個のLEDで飾ります。幻想的でロマンチックな姿が楽しめます。

期 間：12月16日（金）～1月9日（月）

時 間：日没～20：00まで

場 所：海王丸パーク

入園料：無料

駐車場：600台（無料）

〔海王岸壁側からの海王丸イルミネーション〕



（財）伏木富山港・海王丸財団

TEL：0766-82-5181

FAX：0766-82-5197

URL：<http://www.kaiwomaru.jp/>

○進水記念イベント

2月14日(火)は、初代帆船海王丸の82回目の進水記念日(誕生日)です。これを祝して、2月12日(日)に各種イベントを開催します。

※参加費 海王丸乗船料のみ(大人400円、小人200円)

【満船飾(まんせんしょく)】

時間 9:30~15:30 ※荒天時は、中止となります。

内容 船首から船尾までを国際信号旗で飾ります。

【帆船海王丸の特別公開】

時間 10:00、11:15、13:00、14:15(所要時間 約30分)

内容 通常是非公開としている機関室や製帆作業場を見学するツアーです。海王丸クルーが解説します。

条件 急な階段等があり危険なため、小学生4年生以上で、動きやすい服装で参加して下さい。また、サンダル・ハイヒール履きの方は参加できません。

【帆船海王丸キャプテンによる「海、船、港の話」】

時間 10:30~11:15、
13:30~14:15



高岡市

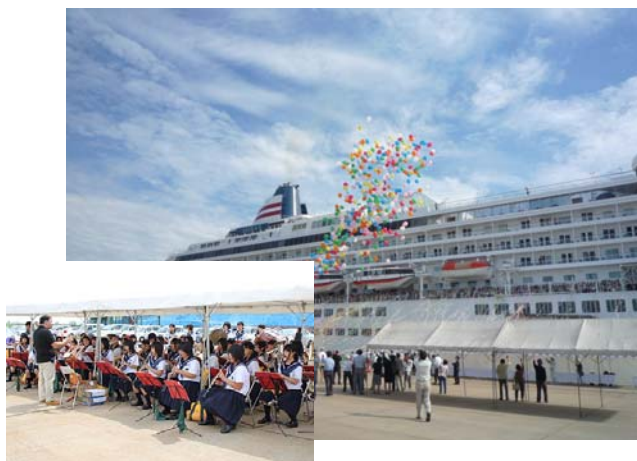
伏木港と苫小牧港を「飛鳥II」で相互交流

8月30日、北海道苫小牧港から高岡市伏木港に、約830名を乗せ「飛鳥II」が寄港しました。乗客は周辺観光や富山市八尾の「おわら風の盆前夜祭」に参加し楽しめました。出港には地元の伏木中学校吹奏楽部の迫力ある演奏で盛大にお見送りをおこないました。

また、9月8日には、伏木港から苫小牧港に向け、約720名が「飛鳥II」で出港

しました。出港セレモニーは地元の舞踊愛好家らでつくる「弥紀(みのり)の会」のメンバーが安全航行を祈り勇壮な舞を披露しました。

同じ時期に高岡市と苫小牧市の港を「飛鳥II」で結べたことは、両市にとって今後の相互交流の発展となることに期待が持てます。





金沢市

ビーサン跳ばし選手権in金沢2011

平成 23 年 8 月 27 日(土)金沢港金石海岸にて、金石・大野まちづくり協議会と(株)エフエム石川の共催及び国土交通省 北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所などの後援により、「ビーサン跳ばし世界選手権 in 金沢」を開催しました。

競技に先立ち、地域住民や競技参加者約 320 名による海岸清掃が行われ、「金石海岸の裸足で遊べる砂浜を守り伝えていこう!」と心を一つにしました。

その後、ビーサン協会岩井信之会長(通称:“ビーサンがんちゃん”)の司会のもと 63 チーム 189 名が、灼熱の砂浜で“ビーサン跳ばし”を繰り広げました。

競技は、3 名 1 組の合計飛距離を争う団体戦と個人戦があり、団体戦では 50.45m とビーサン協会認定世界記録を更新しました。また、個人戦では、これまでの世界記録 30.53m を大きく上回る 34m を跳ばした選手が残念ながらフライングとなり、観衆からは拍手と歓声が響き渡る場面があるなど、「たかがビーサン」とはとても言えない白熱した真剣勝負が繰り広げられました。炎天下にもかかわらず、若者や家族連れの笑顔の輪が広がり、はだしで遊べる砂浜の大切さを実感していました。



この選手権は、今年で 3 年目の開催となり、ますます地域の方々に浸透し、多くの市民に海辺の魅力と大切さを感じていただく良い機会となっています。



七尾市

クリーンビーチななお

7 月 10 日、七尾港佐波海岸の能登島マリンパーク海族公園において、海水浴シーズンを前に「渚は僕らの宝物～地球環境について考える～」をキャッチフレーズに、多くの市民による海岸清掃が行われました。





わじまっこ海の体験学習&輪島港マリンタウン美化活動

○わじまっこ海の体験学習/

7月22～29日、能登半島沖の七ツ島を舞台に、今年で14回目となる「わじまっこ～海の体験学習～」を開催しました。9校11組の地元小学生131名が参加し、金沢港湾・空港整備事務所所有の港湾業務艇「のとかぜ」から、輪島港の第四防波堤や輪島マリンタウンの様子を見学後、海鳥の群がる自然の島「七ツ島」への体験航海、そして七ツ島では、漂流物調査をする体験学習を行いました。参加した児童は、輪島港と能登半島の自然環境を体感し、その素晴らしさを満喫している様子でした。



○輪島港マリンタウン美化活動

9月8日、輪島港の輪島マリンタウン旅客船岸壁周辺において、地元市民団体が参加した美化活動が行われました。この活動は、平成20年から毎年開催され、輪島の海と港に親しめる新たな空間として整備が続いている「マリンタウン」に、地元の人々が愛着を持ち、ここを拠点とした「みなとまち」を活性化することを目的としています。また、当日に入港する大型客船「ぱしふいっくびいなす」の入港前に、花壇に花の苗を植え、夜には客船歓迎文字「がんばろう日本」を描くキャンドルを準備し、手作りのおもてなしを市民の手で演出しました。



復元北前船「みちのく丸」が三国港に寄港！

8月5日(金)、東日本大震災復興支援事業「北前船日本海文化交流」の一環として、復元北前船「みちのく丸」が福井県坂井市にある九頭竜川河口の三国港(福井港三国港地区)に寄港しました。

これに併せて、坂井市制施行5周年記念事業として、坂井市・北前船交流三國湊実行委員会の主催による歓迎イベントが開催されました。

当日は、入港に合わせ午前8時から遊覧船3隻(乗船者約150名)によって、福井新港の見学航海とともに「みちのく丸」を海上から出迎え、岸壁では三国海洋少年団の手旗信号による歓迎メッセージの交信や大勢の市民が出迎えました。



〔復元北前船「みちのく丸」寄港〕

入港歓迎セレモニーの後、午前10時から午後9時まで一般公開が行われ、大勢の市民が訪れ、当時を思い起こし北前船の船内に興味を示していました。また、えちぜん鉄道三国港駅に停車している電車の中では、北前船ゆかりの資料展示や国指定重要文化財である三国港突堤(エッセル堤)築造工事の様子や当時の写真、福井港のあゆみ

などのパネル展示が行われ、物産コーナーでは多くの買い物客でにぎわっていました。

三国温泉ゆあぽーとでは、「北前船フォーラム in 三國」と称して北前船の三国港寄港にあわせ、明治三大築港に数えられる三国港、三角港(熊本県宇城市)、野蒜港(宮城県東松島市)の代表者が参加し交流会が開催されました。この中では、北前船交易によってもたらされた三國湊の歴史的資産を多角的な視点で見つめ直し、それを足掛かりとした今後の北前船寄港地との海際連携の再生、地域間交流、地域活性化の糸口を探るなどの意見交換が行われたほか、先の東日本大震災で甚大な被害を受けた野蒜港は、「今でもがれきが散乱するなど復興の見通しは立っていない」など震災後の深刻な現状が報告されました。

日没後、大震災で被災した野蒜港復興のチャリティとして、九頭竜川河口のエッセル堤及び対岸を2200本のろうそくで照らすキャンドルライトアップが行われ、キャンドルのゆらめく炎にエッセル堤は幻想的に彩られていました。



〔エッセル堤のキャンドルライトアップ〕

おおい町



「みなとオアシスうみんぴあ大飯」登録証交付されました！

11月12日(土)、福井県おおい町の「うみんぴあ大飯」においてみなとオアシス登録証交付式が執り行われ、みなとオアシスとして認定されました。福井県内では、みなとオアシス敦賀に次ぐ2番目となりました。



当日は、「おおいうみんぴあフェスタ2011」オープニングセレモニーの中で、北陸地方整備局東山次長か

ら「みなとオアシス制度を十分活用され、益々地域発展に繋がることを祈念申し上げます。」と挨拶され、その後、時岡おおい町長に登録証が手渡されました。

みなとオアシス旗も御披露目したことで、会場からあたたかい拍手がわき上がりました。

「うみんぴあ大飯」は、和田港(地方港湾に昭和28年指定)の小浜湾に面した内港の尾内地区に県、町、第3セクターにより滞在型の観光施設として整備され、平成21年8月にグランドオープンしました。施設は、緑地、マリーナ、ホテル温浴施設、総合駐車場、長井浜海水浴場などからなり、若狭湾の海洋観光拠点として、港を核とした地域振興として期待されています。年間来訪者は、昨年度約30万人が訪れています。



〔写真：おおい町提供〕

○おおいうみんぴあフェスタ

「おおいうみんぴあフェスタ」は、町内の商工会や漁協など5団体でつくる町産業振興連絡協議会が主催で、にぎわい創出のため毎秋開催の町産業まつりの名称を変更し、本年からうみんぴあ大飯に会場を移し開催したものです。地元の野菜や魚介類、若狭牛などの直売、カニ鍋の振る舞い、歌謡・トークショーなど多彩な催しが展開され地元住民・県内外からの買い物客で賑わっています。



〔親子で訪れている会場入口〕



〔魚介類（かに）、農産物販売コーナー〕